

2026年度 町田市立堺中学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和8年3月31日

学校教育目標 知性を磨き、心情を培い、意志を鍛える	学校経営の重点 ①生徒の自己肯定感を高め、学び続ける力の向上を図る ②組織的な授業改善に取り組み、教師の指導力向上を目指す ③地域の外部人材を積極的に取り入れキャリア教育を充実させる
○目指す学校像……①心身ともに安全で、誰もが安心して通える学校 ②家庭や地域と連携し、地域社会に開かれた学校 ○目指す生徒像……①主体的に学びに向かい「学び続ける力」を持った生徒 ②自他を大切にし、さわやかにあいさつのできる生徒 ○目指す教師像……①人権を大切にし、生徒の可能性を引き出すことができる教師 ②新しい発想を取り入れ、組織的に行動・実践できる教師 ③研究・研修に努め、授業で勝負する教師	重点目標の成果と課題

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	積極的な学校の情報発信に努め、保護者や地域と共有を行う。	学校だよりや保健だより、SAKAI NOWの掲載等を含め、ホームページの更新を定期的に行う。 行事や授業参観の保護者の参加率を上げ、学校の取組への理解を図る。	4 月8回以上の更新 3 月6回以上の更新 2 月4回以上の更新 1 月4回未満の更新 4 保護者の平均参加率70%以上 3 保護者の平均参加率50%以上 2 保護者の平均参加率30%以上 1 保護者の平均参加率30%未満			4 保護者アンケート肯定的評価80%以上 3 保護者アンケート肯定的評価70%以上 2 保護者アンケート肯定的評価55%以上 1 保護者アンケート肯定的評価55%未満						
		地域や家庭との連携を強化する。	地域行事への参加、生徒会や部活動を通じた地域での活動や交流 コミュニティスクールとしての本校の教育活動を周知し、学校運営協議委員と意見交換を行う。	4 年間3回以上の活動・交流 3 年間2回以上の活動・交流 2 年間1回以上の活動・交流 1 活動・交流の機会がなかった 4 年間6回以上の参観・意見交換 3 年間4回以上の参観・意見交換 2 年間2回以上の参観・意見交換 1 年間2回未満の参観・意見交換			4 保護者アンケート肯定的評価80%以上 3 保護者アンケート肯定的評価70%以上 2 保護者アンケート肯定的評価55%以上 1 保護者アンケート肯定的評価55%未満						
		教員の働き方改革を推進する。	教員の健康確保のために定時退勤日を設定し、一人当たりの月平均時間外等在校時間の目標値を目指す。 適切な業務量管理のためノー部活を設定し、ライフワークバランスの調和を図る。	4 定時退勤日を月に4日以上設定(年48日以上設定) 3 定時退勤日を月に3日以上設定(年36日以上設定) 2 定時退勤日を月に2日以上設定(年24日以上設定) 1 定時退勤日を月に2日未満設定または設定なし(年24日未満設定) 4 ノー部活デーを学期に3日以上設定 3 ノー部活デーを学期に2日以上設定 2 ノー部活デーを学期に1日以上設定 1 ノー部活デーの設定が学期に1日未満			4 一人当たりの月平均時間外在校時間30時間以下(市目標値) 3 一人当たりの月平均時間外在校時間30~35時間 2 一人当たりの月平均時間外在校時間35~40時間(市平均値) 1 一人当たりの月平均時間外在校時間40時間以上 4 仕事と生活の調和がとれているの回答60%以上(市目標値) 3 仕事と生活の調和がとれているの回答56~60% 2 仕事と生活の調和がとれているの回答50~55%(市平均値) 1 仕事と生活の調和がとれているの回答50%未満						
確かな学力の育成	子どもが主体的に学び、教師が導く授業改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。	授業の充実と自ら学ぶ力を育てる。	各教科の授業で、生徒がChromebookを使用する場面を効果的に取り入れる。 放課後学習教室を実施し、生徒が自主的に学習に取り組む態度を育成する。	4 授業での使用率30%以上 3 授業での使用率20%以上 2 授業での使用率10%以上 1 授業での使用率10%未満 4 学習教室の実施回数が年間30回以上 3 学習教室の実施回数が年間20回以上 2 学習教室の実施回数が年間10回以上 1 学習教室の実施回数が年間10回未満			4 生徒アンケート肯定的評価80%以上 3 生徒アンケート肯定的評価70%以上 2 生徒アンケート肯定的評価55%以上 1 生徒アンケート肯定的評価55%未満						
		相互啓発のある活気に満ちた授業の工夫をする。	自分の考えを多様な方法で表現させる機会を多く取り入れ、プレゼンテーション能力を向上させる。 他者対話的な活動を通して協働的な学習(アクティブラーニング)を展開する。	4 70%以上の単元で実施 3 50%以上の単元で実施 2 30%以上の単元で実施 1 30%未満の単元で実施 4 70%以上の単元で実施 3 50%以上の単元で実施 2 30%以上の単元で実施 1 30%未満の単元で実施			4 生徒アンケート肯定的評価80%以上 3 生徒アンケート肯定的評価70%以上 2 生徒アンケート肯定的評価55%以上 1 生徒アンケート肯定的評価55%未満						
		キャリア教育を推進する。	地域人材や外部講師を活用し、職業観の育成を図るとともに、主体的に進路を選択する力をつける。 キャリアパスポートを活用することで自己を振り返り、将来の目標や夢が語れるようにする。	4 年間3回以上外部講師を活用した授業を実施 3 年間2回以上外部講師を活用した授業を実施 2 年間1回以上外部講師を活用した授業を実施 1 外部講師を活用した授業の実施 4 キャリア・パスポートを6回以上の場面で活用 3 キャリア・パスポートを4回以上の場面で活用 2 キャリア・パスポートを2回以上の場面で活用 1 キャリア・パスポートの活用場面が2回未満			4 生徒アンケート肯定的評価80%以上 3 生徒アンケート肯定的評価70%以上 2 生徒アンケート肯定的評価55%以上 1 生徒アンケート肯定的評価55%未満						
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にすること意識・態度を育てる。	他者理解と自己理解を通して、一人一人の自己肯定感を醸成する。	自尊感情測定尺度とQUアンケート、いじめのアンケートを活用し、いじめの見逃しをゼロにする。 特別の教科 道徳の研修や道徳講演会の実施を通して、道徳教育の充実を図り、生徒の自己肯定感を向上させる。	4 全てのいじめに対して指導を実施 3 90%以上のいじめに対して指導を実施 2 80%以上のいじめに対して指導を実施 1 80%未満のいじめに対して指導を実施 4 外部講師を招いた研修会を年間3回以上実施 3 外部講師を招いた研修会を年間2回以上実施 2 外部講師を招いた研修会を年間1回以上実施 1 外部講師を招いた研修会を実施			4 保護者アンケート肯定的評価80%以上 3 保護者アンケート肯定的評価70%以上 2 保護者アンケート肯定的評価55%以上 1 保護者アンケート肯定的評価55%未満						
		体力の向上と食育への関心を高め、健康教育の充実を図る。	体力テストの結果分析を生かした保健体育の授業を実施し、日常的に運動に親しむ態度を育成する。 家庭と連携して生徒の生活リズムを維持し、食育を通じた健康教育を推進する。	4 80%以上の単元で実施 3 70%以上の単元で実施 2 60%以上の単元で実施 1 60%未満の単元で実施 4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施			4 保護者アンケート肯定的評価80%以上 3 保護者アンケート肯定的評価70%以上 2 保護者アンケート肯定的評価55%以上 1 保護者アンケート肯定的評価55%未満						
		校内の安全な生活環境を整え、自らを守る安全教育の実施と危機管理体制を確立する。	計画的に食物アレルギー対応委員会や研修、アレルギー面談を実施し、安全・安心な給食の喫食を推進する。 避難訓練や不審者に対応等、安全教育を推進する。	4 年間4回以上の委員会・面談等を実施 3 年間3回以上の委員会・面談等を実施 2 年間2回以上の委員会・面談等を実施 1 年間7回未満の委員会・面談等を実施 4 年間11回以上の避難訓練・安全教育を実施 3 年間9回以上の避難訓練・安全教育を実施 2 年間7回以上の避難訓練・安全教育を実施 1 年間7回未満の避難訓練・安全教育を実施			4 保護者アンケート肯定的評価80%以上 3 保護者アンケート肯定的評価70%以上 2 保護者アンケート肯定的評価55%以上 1 保護者アンケート肯定的評価55%未満						
その他													

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)	成果指標評価基準	学校関係者評価の評価基準例
取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A 取組指標平均 3以上3.5未満 ⇒ 評価B 取組指標平均 2以上3未満 ⇒ 評価C 取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D	成果指標平均 80%以上 ⇒ 評価A 成果指標平均 70%以上 ⇒ 評価B 成果指標平均 55%以上 ⇒ 評価C 成果指標平均 55%未満 ⇒ 評価D	A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要 D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善
※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。		
※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。		